



◆中高祭特集号

# 中里高校新聞

発行:青森県立中里高等学校  
住所:青森県北津軽郡中泊町  
大字高根字小金石567  
電話:0173-58-3149

## 「アオハルで行こう。」中高祭開催

## 複数学年での開催は最後

令和二年九月一九日(土)、一日だけの「中高祭(なかこうさい)」が開催された。

例年、一〇月に二日間の日程で開催してきた中高祭だが、新型コロナウイルス感染症の影響で、高校新卒者の就職活動解禁が一月後ろ倒しの一〇月となったのを受け、中高祭開催の時期を早めて九月実施とした。また、感染リスクを減らすため一日のみの開催、外来入場も保護者限定とした。



テーマは「アオハルで行こう。」



全校に募集し、選ばれた中高祭のテーマは、三年生・佐々木そらさんの作品「アオハルで行こう。」だ。「アオハル」とは、「青春」のことである。

昨今のコロナ禍によって生徒たちは翻弄され、様々なことを制限され続けてここまで来た。この一日、「青春」を解放させよう、「青春」を爆発させよう、そんな思いが伝わってくる。佐々木さんは、ステージバック画も担当した。

中泊町の激辛ジヨロキア料理レシビ認定マークのデザインも手がけた佐々木さんのイラストの腕前はプロ級。すがすがしい夏空を見つめる高校生男女の後ろ姿を、明るいタッチで描いた作品は、テーマに見事にマッチしており、中高祭の雰囲気も爽やかに盛り上げた。

### 生徒デザインのTシャツを全員で着用



野上流聖生徒会長(左)と白濱校長(右)

中高祭開催に先立つ九月一五日(火)、ナカコウTシャツの贈呈式が行われた。このTシャツは、閉校実行委員会(濱館豊光委員長)からの寄贈で、デザインは本校三年生・北島妃愛(ひなり)さんの手によるもの。背面に、大きく羽を広げた

伝説の霊鳥・大鵬(たいほう)が配され、WELL BE HERE FOREVER(私たちはこれからずっとここに居る)の文字が添えられている。中高祭当日は、生徒・職員全員がこのTシャツを着て臨んだ。

### 二日の日程を一日に 超過密スケジュール!

#### 【タイムテーブル】

- 二時~三時半 模擬店販売
- 四時五分~七時半 ステージ発表
- 七時半~八時半 生徒会企画
- 八時半~八時五十分 サプライズ企画

#### 【展示部門】

- 生徒活動記録展
- SBP(ソーシャル・ビジネス・プロシエクト同好会)活動記録展

#### 【模擬店】

- 二年「あーちゃんの駄菓子屋」
- 三年「あーまれ三HRの森」(焼きそばとパンケーキ)

#### 【ステージ部門】

- 朗読「ソククル心算算」による朗読発表
- 吹奏楽部演奏会
- 二年生仮装大会
- 二年生ダンス
- カラオケ大会

一か月前倒しになったことで、準備期間が殆ど無いまま本番に突入していった今回の中高祭だったが、生徒たちは、まがりなりに自分たちの手で展示、模擬店、ステージ発表を作り上げた。ただ、二日の日程を一日に凝縮した当日のスケジュールは、かなり超過密なものだった。



生徒活動記録展・SBP活動記録展 (1階多目的室)



総合学習(FOD)で制作したヒバのティッシュボックス展示 (1階廊下)



こだわりの模擬店



ひたすら麺を炒める3年男子

「いいらっしやいませ えええっ!」

スケジュール凝縮の結果、模擬店の開店時間は、一時から三時半までの一時間半だけ。だからこそ、生徒たちの模擬店にかける意気込みは凄まじかった。三年生の「焼きそば」は、ソース味と塩味の二種。それぞれ一〇〇円の破格値。目玉焼きが乗ると五〇円アップ。「紅ショウガは乗せませんか」好みを聞いてくれる販売男子の心遣いが嬉しい。



女子こだわりのパンケーキ



チョコソースかけ放題

女子は「こだわり」のパンケーキを販売。アイスのトッピングはバナナとチョコの二種から選択。ソースはチョコとメイプルシロップのいずれかを。さらにカラフルなチョコスプレー(よくドーナツにかかっている色とりどりの小さいつぶつぶ)、コーンフレークは、セルフでかけ放題ときていた。ドリンク販売も女子担当。グラニュー糖に漬けたレモンの破片が惜しげもなくカップに注がれたレモネード一〇〇円は絶品。三年女子のこだわりは相当なものだった。



こだわりレモネード



あべちゃんは担任の阿部先生のこと

二年生の模擬店は、「あべちゃんの駄菓子屋」。懐かしい駄菓子の数々(うまい棒、キャベツ太郎、ビッグカツ、紋次郎)が、フルーツ飴引きなどが、所せましと並べられた。値段は一個一〇円から四五円。さらに嬉しいことに、総額一〇〇円以上買うと「型抜き」に挑戦できる特典が。童心に返るかけがえのないひとときが味わえる店。それが「あべちゃんの駄菓子屋」だった。



「型抜き」は超絶高難易度

電光石火の撤収 白熱のステージ発表



模範店 終了の一三時半になると、ブルースの敷

かれた体育館の飲食会場があつという間に片づけられた。同時に調理室でも、もの凄い勢いで片付けが展開していた。

というのも、三〇分後の一四時から、全校生徒総出演の舞台発表が始まるのだ。実に慌ただしい限りだが、生徒たちの動きは滑らかだった。あつという間にステージ発表が始まることとなる。



山形大学主催の朗読コンクールに応募した二人の発表



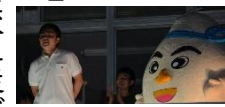
吹奏楽部の発表。指揮は、熊のプーさんに扮した工藤先生



全校生徒二七人のステージ発表は、めまぐるしく主客が入れ替わる。演者がステージから下りると、今度は観客だった生徒たちがステージに上がる。先ほどの演者たちは、舞台上で色とりどりの光を放つサイリウムを振り、ステージに声援を送る。

サプライズの大花火

舞台上上がった降りたりと忙しい限りだが、忙しさは充実感に比例するようだ。生徒たちは、なんと生き生きとした表情を見せているのか。複数学年による最後の中高祭。生徒たちは「アオハル」していた。最後は、全校生徒が玄関前に集合。二年生・中島海里君の三本締めで中高祭が終了した!と思ったその時、「ゴーン」まさかの花火が夜空に開いた!「ゴーン、ゴーン、次々と上がる花火に歓声が上がります。コロナ、コロナで閉塞感の中にいる生徒たちを励ましたいと、白濱校長が発表したサプライズ企画だった。こうして中高祭は、感動のうちに幕を下ろした。



生徒会企画「わたしの主張」

